

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 0171000607, 株式会社 健康会).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0171000607-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Evaluation Agency Name (企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部) and Location (札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「倫理に基づいた介護力育成と、入居者様の人格を尊重した質の高い支援」を目標に掲げています。
理念を基に「和顔愛語」という接遇目標を設定し、言葉での虐待・拘束の無いホーム作り...

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、江別市の東方向にあり、JR江別駅から徒歩圏内に位置する2階建て2ユニットのグループホームである。隣接して、消防署や有料老人ホームがあり、避難訓練やイベントなど連携して行っている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Level (1-4), and Evaluation Result (O/empty circle).

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のカンファと2か月に一回の運営推進会議で理念を唱和し共有している。	理念を玄関や事業所内の目に触れる所に掲示し、職員一人ひとりが常に意識をもちカンファレンスや運営推進会議で唱和して、理念を共有し日々実践できるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議には町内の方に参加していただき、顔の見える関係づくりに努めている。また広報誌を毎月回覧してもらっている。	町内に広報誌を毎月回覧し、事業所の様子や運営推進会議・行事の予定など知らせている。事業所主催の夏祭りに家族や地域の方が多数参加したり、近隣の幼稚園園児が遊びに来るなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で町内の方に近況をお聞きし、様子を知るようにしている。地域包括の方も会議に参加していただき相談体制を整えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	日頃の写真をテレビに映し出し、現場の状況が伝わるように工夫している。他事業所の事例も伺い、ホームでの取り組みに活かしている。	運営推進会議は、家族や地域包括支援センター担当者・認知症支援推進員、町内役員、地域の方などが参加して、定期的開催し、運営状況の報告や情報交換、意見交換など行い、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課にはほぼ毎月どちらかの計画作成担当が書類受け取りなどで訪問し顔がわかるように意識している。連絡はメールでいただいている。	江別市介護保険課には、毎月の報告書類提出等で面会しており、保護課は半年に1回定期訪問があり、情報交換している。また、地域包括支援センターとは、運営推進会議に参加しており、意見交換や情報交換をして協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一回の身体拘束適正化委員会や定期的な研修で、身体拘束について理解し、どうしたら拘束せずに済むか、また、今のケアは拘束に当たらないか話し合っている。	事業所内に身体拘束適正化委員会を設置し、指針やマニュアルを整備して、3ヶ月に1回事例の検討会を定期的開催している。また、法人内の研修会参加や事業所内の勉強会で学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修の機会があり、グレーゾーンについて考える		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のリーフレットの回覧、利用している入居者様がいるため、活用の状況を見て学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約についての説明の時間を作ってほしいと伝え、しっかりと時間を取って説明し、納得いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望受付書を玄関に用意している。口頭で受け付けたときは文書に記録し、今後の対応を検討している。	家族の方々へは毎月広報誌で様子を伝え、遠方の方には担当者から利用者の生活状況を書いた手紙を添えて送付している。意見箱を玄関に設置しているが、殆どは来訪した家族から意見や要望を直接聞き運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に二回面談の機会を確保している。カンファや日頃の業務内でも意見や提案を受け、対応している。	全体会議を月1回行い、ユニット会議も月1回開催している。身体拘束適正化委員会や各委員会も定期的に行っており、管理者と職員の面談も年2回定期的に行っており、職員からの意見や提案を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一般職員は年に2回管理者と面談があり、その結果は会社代表へ共有されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実績者研修、実績リーダー研修を受講。法人内の研修も定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修に参加することでネットワーク作りが出来る。あおいの会の活動で市内GHと共に学び交流する機会があり情報交換出来た。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談などの情報を職員間で共有し、入居されてからのケアに役立てている。積極的に会話し、不安なく過ごせるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談でご家族にも不安点・要望などをお聞きし、入居後のケアに役立っている。面会に来られた際にも、お聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後3～4日は詳細な行動記録を取らせていただき、それをもとにカンファレンスを行い今後の支援に役立っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、利用者それぞれが出来る範囲でお手伝いをお願いしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際や、通院の付き添い等でご家族には、協力をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出のあるしゃしんい紙等は大切に保管させて頂いておりいつでもご覧になれるようにしている。また、本人ご家族の希望で居室壁に貼らせていただくこともある。	地元出身で入居する方が殆どなので、常に家族の方が来訪したり、外食に行ったり、美容室の方が送迎するなど馴染みの関係継続が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の良好な関係維持のために気を配り必要とされる時には間に入り円滑なかかわりが出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、相談に来設されたり、ご逝去の際は連絡を頂きお別れの時間を頂くことが出来ている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に一度のカンファの時に、入居者様一人一人に、どんな対応が本人に対してベストな対応可を話し合っている。	入居時に本人や家族から意向を聞き、生活歴や趣味、性格をリストアップし、職員一人ひとりが情報共有できるように入居者のリストを作り、カンファレンスで検討し本人の思いに配慮した介護ができるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々一緒に生活をする中で、色々会話をし、その中で今までどんな生活だったかなどの状況を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ここに置ける日々の生活記録を重要視して、記録や話し合いを基にケアプラン更新時にも役立っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画担当・ケア担当でのモニタリング及びカンファレンスでの意見交換。外部業者・医療からの助言などをもとに家族を含めたサービス担当会議を行い、ケアプランに反映させている。	計画作成担当者と利用者毎のケア担当者がモニタリングして、カンファレンスで検討し、医師や看護師、PTからの意見も踏まえ、原案を作成し、サービス担当者会議で本人や家族の意見や要望を聞き、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活シートに活動状況・表情・言葉を残して。新しいケア導入時には、その変化がわかるように記載するようにしている。生活シート及び申し送り・回覧シートも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージ・訪問歯科の導入。他職種への積極的な働きかけや協力体制を取り、支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幼稚園に慰問依頼や要支援で使ってもらうチラシで作ったごみ箱を(入居者作成)と一緒に届けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族同行には、診察に役立つ日々の記録・資料などを用意し、気付いたことなどお知らせしている。病院へも薬ケアについて問い合わせをしている。必要な時にか職員も同行している。	かかりつけ医は、本人や家族の希望を重視し、馴染みの医療機関を継続できる。家族と受診の時は、職員も同行し情報を共有したケアに築けるようにしている。また、協力医療機関の月2回の往診や週1回の訪問看護で適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	おおあさクリニックナースへ確認・質問事項があれば用紙に記入しナースラウンドで相談している。その他、電話でも24時間相談できる体制になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、資料を作成し情報提供している。入院中も入院状況を把握し、退院後のケアについても適切なケアが出来る様に検討をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末期の看取りケアについては、職員間で話し合ったり、見取りに関する本などを活用している。独自の看取り冊子を作成し意識統一に役立てたり、(株)健康会での研修もある。	重度化や終末期における看取りに関する指針は入居契約時に説明し同意を得ている。看取りの手引きを作成し、勉強会や外部から資料を取り寄せ定期的に研修を行い質の高い支援ができるよう努めている。重度化した場合は、主治医が説明し再度意向の確認をして対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファや勉強会で緊急時の対応を勉強している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	普段から災害備蓄を整えていた。昨年は、災害もあり、職員はみんな協力し合い乗り切った。今後も災害時訓練はますます必要性を帯びてくると思われる。	避難訓練は、消防署の指導の下、地域の協力により火災と自然災害を定期的実施している。また、備蓄や簡易ストープ等の備品も整備して、災害対策を行っている。	避難訓練は、火災や自然災害も含めて定期的実施しているが、地震・台風・水害等の自然災害対策のマニュアルも至急に整備することを期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご家族からこれまでの生活歴などを聞き取り一人一人を理解し、尊重する。その方に合わせた言葉選びに努めている。	人格の尊重とプライバシーについては、法人内の接遇の研修会参加や事業所内の接遇の研修会で学んで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お好みの飲み物を選んで頂いたり、洋服と一緒に選んだり、自己決定の機会を意識して作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	生活ペースを把握し、集団生活の中で可能な限り、個人の希望に沿って暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お好みの色やコーディネートを知り、一緒に楽しむようにしている。本人からの希望が聞き取りできなくなっても、以前の好みから想像し、その方らしい服装が出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の盛り付けは入居者様がして下さることが多い。台所に入って野菜を切ったりも一緒にしている。	献立や食材調達、料理も職員が担当している。利用者は、盛り付けや食材の下準備など手伝っている。行事食は、たこ焼きやお好み焼き、バーベキューなど行っており、外食は、回転すしやファミリーレストラン、道の駅でのスイーツなど多彩な支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お好みに合わせたものを提供し栄養が十分取れるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士からの助言を参考にして、不十分な部分は介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時のトイレ誘導はなく、その方の排泄リズムに合わせたトイレの声掛け、介助している。	利用者個々の排泄チェック表を職員間で共有して、利用者一人ひとりの表情や仕草を観察しながら、声掛け誘導して、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲むヨーグルト、スキムミルク、オリーブ油、オリゴ糖を提供。便の出やすいようリズム作りに食後トイレにお誘いしている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴の声掛けをし、今日は入りたくないと話される方には無理せず、次の日に入浴して頂いたりしている。	入浴は、週2回行っており、曜日や時間は関係なく、その日その時に合わせた利用者個々の状況に沿った入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠そうな様子など見られた際には、こちらから声かけし、休息をとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はいつでも見れるようファイルしてある。個人に合わせ飲みやすい形状にしてもらえよう医療に希望を出している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理のない範囲でお声がけし行っていただく。利用者様方より「やるよ?」と言って頂く方が多い。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常では、希望に沿えてるとは言えない。全体での企画行事でバラ園、ガストなど、ご家族の協力を得て外出できた。個別に、セトモノ市へ外出した。	温かい時期には、近隣の散歩や敷地内にある家庭菜園の作業など行っており、特にスポーツマッサージ師による体操や散歩などのリハビリ支援も行っている。外出行事は、イチゴ狩りやバラ園、せともの市、お花見、紅葉狩り、ショッピングセンターでの買い物など季節に応じた支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、出来る方には自分で買い物、支払いをして頂いた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じご家族と電話してもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日光をよりよく入れるためにカーテンを開け、まぶしい時にはレースカーテンを閉めたりと工夫を行っている。室温もその時の気温などに合わせたり、加湿器を使用している。	利用者が日中殆ど過ごしている食堂兼居間は陽当たりが良く、ソファが沢山あり、その日の気分で好きな場所で過ごすことができる。廊下の壁には季節を感じられる飾りつけや行事の写真が掲示され、楽しい雰囲気となっている。また、室内には今年度から除菌ミストを設置しており、風邪などの感染症が発生していないなど配慮した設備である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ席の配置を工夫し、TVが見たい、作業がしたいなどの要望の応じられるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ち込んで頂き、本人やご家族と相談しながら配置。見える場所に写真を飾っている。	居室には、ベットと大きな収納が設置している。また、緊急時に使用する利用者の名札も整備している。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所を示す「トイレ」や、トイレ内に使い方貼り紙をしている。廊下に体操メニューを貼り、取り組めるよう工夫している。		